

公表

放課後等デイサービス事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童デイほっと		
○保護者評価実施期間	2026年1月23日		～ 2025年2月5日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	35	(回答者数) 31
○従業者評価実施期間	2026年1月23日		～ 2026年1月30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 5日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	定期的に外出やクッキングなどの企画を設け利用者が楽しめるイベントを提供している。	月に1回以上の定期で行えるよう努めている。	職員人を確保し、規模の大きい施設や個々の利用者が主体的に行動できるよう体制を整えることで充実イベントの実施が可能。
2			
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	室内環境が1フロアのみでの為、クールダウンや個別療育を行うことが難しいと感じることが多い。	・1フロアしかない ・パーテーションなどを設置したいが室内が狭いことから物が置けない。	・必要に応じてトイレの個を使ったり、クールダウンとしては適していないが収納部屋を活用したりして、個別対応を行っている。 ・改善策としては天井設置型のおりたたみができるパーテーションを設置。
2			
3			

公表

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果

事業所名	児童デイほっと		公表日		2026/2/27	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	2	5	1フロアしかないがテーブルや椅子など移動させる等、工夫している。	・スペースは適正だが個室があるとクールダウンや個別療育をする時間をできる。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	4	3		・肢体不自由児や送迎箇所が多いことから人員不足を感じることもある。 ・他事業所に職員ヘルプを出す兼ね合いで自事業所の職員人数がマイナスに感じることがある。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	1	6	肢体不自由児が安全に過ごしやすいよう床をクッションにしたり、室内レイアウトを変更したりする等工夫に努めている。	肢体不自由児が利用している兼ね合いからバリアフリー化されると良い。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	3	4	1と同様	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	1	6	環境の問題で個別的な支援をすることが難しいがグループを2~3つに分けなるべく小集団による支援を提供し、落ち着いた環境が保てるよう努めている。	・室内環境は整えられているが物が多く視覚的に落ち着く環境ではない為、整理が必要。 ・クールダウンや個別療育する環境がない為、環境による支援の限界がある。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	5	2	定期的に開催し、業務内容やルールの改善に努めている	パートが参画しなくても共有できる方法を検討する必要がある。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	1	年に一度、1月にHUGアプリを通して自己評価を保護者に依頼している。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	1		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	0	7		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5	2		
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7	0	弊社HPIに添付済み。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6	1	保護者とアセスメントや送迎時等、些細なやり取りの中からニーズを把握できるよう努め、支援計画に取り入れられるようにしている。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6	1	日常的に支援の振り返りを行い、利用者個々の対応方法について共通認識を図っている。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6	1		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5	2		
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7	0		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6	1	朝礼の時間を設け、チームで意見交換しながら支援の提供を行うようにしている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	4	3	基本的に活動プログラムは固定だがその中でグループに分け、支援内容を工夫しながら提供している。	

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6	1	保護者のニーズを聞き取りと本人の成長段階を判断した上でADLの向上を意識した支援計画が作成できるよう努めている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7	0	必ず朝礼を行い。情報共有を行っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	3	4	パートよち意見があったことから現在では終礼を行い、支援の振り返りと共通認識を図っている。	パートに対する共有を手厚くしてほしい
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7	0	ヒヤリハット、にやりほっと、特記事項の3種に分別し当日のお子様の様子を記録している。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7	0	違和感を感じた際にすぐ職員間で情報共有を行い、支援の見直しができるよう意識している。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	6	1	地域交流が課題であるがその他は日常的な支援に組み込み提供することが出来ている。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	7	0	・おやつや余暇時間の玩具など利用者が選択できるようにしている。 ・活動に関しても利用者の特性を考慮しながら選択的に活動提供することもある。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6	1	児発管がメインに参加し、情報共有に努めている。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6	1	相談員や学校の先生との連携を図り、一貫性のある支援が出来るよう努めている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	7	0	主に保護者と連携し学校迎えや利用者の対応相談している。必要に応じて学校に直接連絡することもある。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	5	2	対象のお子様に関して、児童発達支援と連携を行い、放デイ利用開始時にスムーズに支援が提供できるよう情報共有を行っている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	2	5		問い合わせがあれば共有しているが保護者と相談し、移行先との情報共有を検討。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	4	3		業務上余裕がない為、研修に参加できていない。次年度は体制を整え参加できるよう努める。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	3	4	公園や公共施設等で他所の子と接する機会を設けている。	交流する機会がほとんどない為、機会を設ける必要がある。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	5	2	管理者及び児発管が参加している	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6	1	送迎時、連絡帳を活用し情報共有や苦しいことに対する改善策や対応方針などをお伝えしている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	1	6	ペアレントトレーニングを行うことが出来ないが事業所の支援方針や支援の具体的な必要性について伝える場を設けている。	
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7	0	契約時や保護者会を通して説明している。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7	0	利用者の自立心やADL向上を目指し支援していることを保護者アセスメント時に伝えると共に保護者の意向も併せて確認している。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	7	0		
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7	0	適宜行っている。	

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	7	0	年1回で保護者会を行い、必要事項の情報共有を行っている。	
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7	0	管理者が在勤時は、迅速な対応を行っている。不在時は、後日早急に対応を行っている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	3	4	HUGや弊社HPを通して広報に努めている。	発信する為の業務時間確保が課題。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7	0	キャビネットに鍵をかけて適切に保管している。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7	0		
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	2	5		今年度は参加していない為、次年度は参加できるように努める。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6	1	保護者会の際に資料を用意し、配布説明を行っている。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6	1	毎月、避難訓練を実施し適切な避難ができるようブラッシュアップを重ねている。	救命救急の研修が適切に行えていないことから次年度、消防署と連携のもと職員研修及び訓練を行う。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	6	1	利用者一覧表を作成し、把握済み。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	3	4		現状、医師の指示書が必要なお子様がないが今後利用があった場合は、左記の対応を行う。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6	1	社内研修を通して相違理解に努めると共に目標設定したことが達成できるよう努めている。	
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6	1		保護者への周知ができていない。次年度の保護者会を通して情報共有に努める。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7	0	日々、振り返りを行いヒヤリの共有と今後の対策について検討している。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6	1		
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	6	1	契約書に記載があり、契約時に口頭説明を行っている。		